

「井之川中学校の下久志棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

徳之島町立井之川中学校

2 学年・人数

1年生から3年生（計33人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年10月12日（水） 総合的な学習の時間（本校体育館）

令和4年10月19日（水） 総合的な学習の時間（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和4年11月1日（火） 校内文化祭（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

下久志棒踊り（しもくしぼうおどり）

(2) 由来

本校区の下久志地区には、昔、鉦山があり、銅が掘られていた。大正15年、鉦山の採掘がいちばん盛んだった頃は、鳥取県や島根県などからたくさんの鉦員が下久志地区に来て働いており、5月19日と9月23日に山の神への御礼に「山の神まつり」を行っていた。その時、奄美大島で行われていた踊りを徳之島の青年が下久志地区の人々に伝えて、「山の神まつり」で踊るようになった。

(3) 構成等

4人1組で2人ずつに分かれて、長い棒を持って踊る。唄に合わせて勇ましく棒を打ち合わせたり、相手が振り下ろす棒を受けたりする動作を、隊形を変えながら行う。また、唄に合わせて合いの手を入れるのも特徴である。唄は前奏に続き、4回繰り返す。

【歌詞】

「おーおーおおええー江戸おおーわ 見いええたあかあよ
まあだあー見いいえぬ やあまあかあわあ みいなあとおーわ
まあつうやあまあでえ まあーええーわあ ううみいに
はあーしりぶうねえ あーれは しよーい しよい さあーさあ
えいえい」

5 保存会や地域との連携の具体

平成30年から下久志棒踊り保存会の全面的な支援の下、棒踊りを井之川校区の郷土芸能として継承を目的とし、下久志青壮年部の有志の指導により、生徒及び職員が踊りを練習している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間において、郷土伝統を体験・表現する学習を設定している。郷土に伝わる踊りについて、地域の方々から学ぶ場を設定することで、伝統芸能を継承してほしいという地域の思いにふれさせることができる。また、全学年で取り組むことで、3年生が下級生の手本となっているため、上級生としての活躍の場にもなっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【下久志青壮年部による指導の様子】



【学習発表会で発表する様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【1年生生徒】

3年生の先輩たちにしっかりと指導してもらえたので、自信をもって踊れた。

【保護者】

皆さんのやる気を見せていただきました。一言だけ、文化祭の「祭」の部分がほしかったです。例えば、棒踊りは舞台上だけでも衣装がほしかったです。

また、棒だけでも紅白のテープを貼るとかすると全然違った感じになるのではないかと思います。

【保存会】

今後も地域住民の人材活用をしていただきたい。ご縁を大切にしながら、生徒の皆さんの成長を応援しています。

【教職員】

生徒の中で下久志棒踊りは、自分たちが継承していくべき伝統芸能の一つであるという意識が浸透している。そのため、講師のいない日でも練習がしっかりとできているし、文化祭での発表も自信をもって力強い踊りができている。